速　報

自然体験活動の学業面における効果について[*1]
― NPO 法人 G 自然学校を例に ―

吉岡敦之[*2]・井倉洋二[*3]・枚田邦宏[*3]

吉岡敦之・井倉洋二・枚田邦宏：**自然体験活動の学業面における効果について－ NPO 法人 G 自然学校を例に－　九州森林研究 68：105－106，2015**
自然体験活動は人格形成など多面的な教育効果を持つが，子どもの頃の自然体験が学業面にも影響を及ぼすかということについて調査した。宮崎県の G 自然学校が実施する「放課後子ども教室」では，教科学習と自然体験活動を合わせて行っている。これらの組み合わせにより得られる学業面での効果を調査したところ，子どもの放課後の学習時間が確保され，積極的で効率的な学習を構築し，体験の蓄積が長時間の記憶の定着に繋がっているといった効果がある可能性が示唆された。
キーワード：自然体験活動，自然学校，学力，教育効果，放課後子ども教室

Ⅰ．はじめに

現在，青少年を取り巻く環境において，直接体験の減少や人間関係の希薄化がみられることに対し，心と体の相まった成長を促すため，自然体験を含む体験活動が重要視されている。自然体験活動は，自然・生物や仲間・多様な人々との関わりを通して人間性を豊かにし，コミュニケーション能力や規範意識を高めるなど，青少年のいわゆる「生きる力」の育成，すなわち人格形成の面で貢献していると捉えられている。

一方，独立行政法人国立青少年教育振興機構（2012）によれば，子どもの頃に体験を多くした人ほど，物事に対する意欲・関心が高く，学歴が高いという結果が報告されている。また，学習塾の中にも自然体験活動を実施している例があり，自然体験活動が人格形成のみならず，学業面にも何らかの影響を与えるのではないかと考えられる。

宮崎県の G 自然学校が実施する「放課後子ども教室」では，教科学習と自然体験活動を合わせて行っており，宿題の学習習慣をつけさせ，自然の中で自発的・積極的な行動ができるように促すような教育を実施している。

そこで，本研究では，G 自然学校の「放課後子ども教室」を事例にあげ，参加児童の学業面に対する影響について考察し，自然体験活動が及ぼす効果の新たな視点として提示したい。

Ⅱ．調査対象と調査方法

1．調査対象

G 自然学校は，平成 16 年に宮崎県北部の山間地域にある G 町に NPO 法人として設立され，豊かな自然を生かした自然体験学習等を行っている。「社会教育」を教育理念とし，学校・家庭・自然学校・地域のコミュニティーなどすべてを含めて「地域全体で子どもを育てる」ということを教育方針としている。特に，「指示待ちの子どもを作らず自主性を持たせる」ということや，「いじめの早期発見から良い人間関係をつくる」ということに力を入れている。このような社会教育を通し，社会で役立つ子どもを育てる教育を目指している。平成 24 年度実績では「放課後子ども教室」をはじめ，地元の農林業の活性化や観光に関わる事業等，幅広い事業が行われ，その数は 23 事業にのぼる。

「放課後子ども教室」は，主に地元の小学生を対象とした教科学習や自然体験活動を実施する G 自然学校の事業である。G 町の委託事業（文部科学省，県の補助金を利用）であり，G 町による委託金約 240 万円（平成 24 年度）を利用して運営されている。委託金で収入総額の 86％を賄い，残りの 14％は参加者の月謝 1，000 円による収入である。スタッフは G 自然学校の職員とアルバイトの合計 3 名程度に加え，理事長自らも担当しており，担当者の中に教員免許の所有者はいない。

参加者は地元の K 小学校に在籍する児童 27 名のうち 26 名である（平成 26 年 10 月現在）。活動内容は，平日は自習形式の宿題学習，生物観察・魚釣り・木工体験などの自然体験活動を行い，長期休暇などにはカヌースクール，沢登り，スキー教室などが実施される。中学生も，希望者は無料で参加できる。

2．調査方法

2014 年 6 月 6 日および 10 月 1 日に，G 自然学校の施設において，理事長に聞き取り調査を行うとともに，教室に参加している児童の様子を観察した。

その他，活動内容や事業費等の参考とするため，事業報告書等を閲覧した。

Ⅲ．教科学習の学業面に対する効果

「放課後子ども教室」の教科学習では，宿題を自習形式で行う。分からない箇所があれば友達やスタッフが教え，宿題はすべて解答して帰る。このように放課後の学習習慣をつけさせることで，

---

*1　Yoshioka, A., Inokura, Y., Hirata, K. : The effect of nature experience activities on academic ability –a case study of G nature school–.
*2　鹿児島大学大学院農学研究科 Grad. Sch. Agric., Kagoshima Univ. Kagoshima 890–0065, Japan.
*3　鹿児島大学農学部 Fac. Agric., Kagoshima Univ. Kagoshima 890–0065, Japan.

参加児童には，学校の学習についていけない，いわゆる「落ちこぼれ」はいないという。

国立教育政策研究所（2013）によると，「全国学力・学習状況調査」で高知県の学力が改善した例では，放課後の補充教育を実施したところ学習時間が伸び，各教科で4-5％の点数の向上がみられたという。同様に，「放課後子ども教室」が学習時間を設け，学習習慣をつけさせることにより，参加児童の学力向上に貢献していると考えられる。

Ⅳ．自然体験活動の学業面に対する効果

自然体験活動と学力との相関については具体的に検証できていない。ただし，理事長の話を通して，以下のような効果が示唆された。

放課後子ども教室の自然体験活動では，「指示待ち」の子どもを「自主性」のある子どもに育てるため，細かい実施計画をあえて作らない。スタッフは身近な自然の中で，子どもたちの興味を引きだし，子どもは，その場にあるもので自由に考えて遊びだす。開始当初は指示待ちの子どもが多かったが，3年後から自主的に動く子が現れ，現在は子どもが自主的に考えることが当然の環境になっているという。

地元のK中学校3年生は，全員放課後子ども教室に6年間通った卒業生であるが，その中学3年生が，平成26年度の学力テストで県内トップの成績をおさめたことが学校関係者からの話でわかっているという。

このように優秀な学業成績を収めている要因は，1つには前述のように放課後に規則正しい学習習慣をつけさせたことによると考えられるが，自然体験活動の効果として，理事長は次のように述べた。自主的に遊びを考えさせる自然体験活動では，「興味から工夫し成功させるまでのプロセスと喜びを知ると，物事に対して積極的になる」。このことからK中学校3年生は，学習でも積極性を持ち，各自が学習プロセスや効率的な学習法を構築していることなどが考えられる。

また，「体験によって感じた現象はイマジネーションとして蓄積され，その上に概念を学ぶと，腑に落ちて忘れにくい記憶となる」という。体験による実感のもとに学習内容が蓄積することで，長時間の学力の定着に一定の効果があることが考えられる。

Ⅴ．おわりに

教科学習と自然体験活動を組み合わせた学習は，詰め込み型の学習とは異なる方法で学力を向上させる効果があるのではないか。

また，これとは別に，放課後子ども教室で宿題を済ませることにより，規則正しい生活や家庭での会話の時間が確保される。浜野（2014）によると，「規則正しい生活，勉強・成績の会話をする家庭の子どもは学力が高い」という。「放課後子ども教室」の直接的な効果ではないが，家庭の時間を確保できることで二次的な効果がある可能性がある。

今後の課題としては，K小・中学校の児童・生徒について，学校や家庭での学習環境や学習方法などについて調査し，放課後子ども教室と学力の間に本当に関係があるのか，何が要因かを検証する。

また，自然学校とは別に学習塾が実施する自然体験活動についても調査し，学業面や経営面からみた本業への効果などについて調査する。

謝辞

調査にあたり，G自然学校理事長にご協力を頂いた。ここに厚く感謝の意を表します。

引用文献

独立行政法人国立青少年教育振興機構（2012）「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書〔概要〕，2 pp.

浜野隆（2014）平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を利用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究：18-36，お茶の水女子大学.

国立教育政策研究所（2013）平成25年度全国学力・学習状況調査の結果について（概要），3 pp, 国立教育政策研究所ホームページ.

（2014年11月13日受付；2015年1月21日受理）